

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 **最終**)

川尻中学校区 校番 18 学校名 呉市立川尻中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
確かな学力	*** ① 基礎学力の定着を図る	○主体的な学びへの授業改善 ○家庭学習の習慣化	○93.9%の生徒が、自分の考えを持って「やってみたい。解決したい。考えてみたい。」という姿勢で授業に取り組んでおり、達成度は117.3%であり、評価は中間と同じAである。 ●タブレット等のICT機器を効果的に利用し、生徒がわかりやすい授業を仕組んだ教員の割合は90%、達成度94.7%で、評価はBである。ICTを活用することができるように教員のスキルを向上させることが必要である。 ●宿題の提出率について、2年生は目標値を達成した。1・3年生は、提出しにくい生徒が固定化している。 ●2学期末試験の点数については、2年生と3年生が目標値を達成している。1年生が8%下回っている。	・授業の「めあて」や「ゴール」を明確にし、生徒の興味をひくよう、指導内容を工夫することで、全ての生徒が関心を持ち、目標を持って授業に参加できるようにする。 ・タブレットを使用することで、生徒の理解を深めることにつながる。「めあて」や「ゴール」にせまるための効果的なICT機器の活用についての研修等を行う必要がある。 ・全学年、朝学習のQubenaタイムを充実させる。課題のある学年に対しては、複数体制による指導を充実させる。
豊かな心・健やかな体	★★ ② 自己指導能力を育成する ③ 健康的な生活習慣の確立と体力向上を図る	○生活規律・学習規律の定着 ○夢や目標への挑戦 ○自尊感情の向上 ○防災の意識を高める ○体力の向上 ○食育の推進	○授業はじめに4動作の挨拶をする生徒の割合は97.3%となっており、目標値の90%に対して達成度は108.1%となっている。繰り返し指導していくことで、定着しつつある。 ●将来の夢や目標を持っている生徒の割合は83.0%となっており、目標値の90%に対して達成度は92.2%となっている。夢に対して具体的な目標を持っている生徒とそうでない生徒の差が大きい。 ●ボランティア活動参加生徒の割合は53.1%となっており、目標値の90%に対して達成度は59.0%となっている。川尻元気まつり等大規模なボランティア募集があったが、部活動によっては参加できない生徒もいた。 ○災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している生徒の割合は94.6%となっており、目標値の90%に対して達成度は105.1%となっている。アンケートや携帯マニュアルの作成などを行っている。また関係諸機関との連携も図っている。 ○生徒の割合は82.3%となっており、目標値の80%に対して達成度は102.9%となっている。 ○12時50分までに配膳完了した割合は、94.9%で目標値を超えていた。殆ど達成できているものの、特定のクラスが低い。その要因として、エプロン等を忘れる生徒が多いこと、取り掛かりが遅いの、4時間目の授業が延びると更に遅くなることがあげられる。	・引き続き繰り返しの指導を行っていく。また、委員会等を活用して生徒からの声掛け等も行っていく。 ・総合的な学習の時間等を通して、将来の可能性を上げられるようファシリテートしていく必要がある。また、面談等で生徒の状況を把握する。 ・土日の活動に参加できない生徒もいるため、委員会等を活用して校内ボランティアを呼びかける。3年生については卒業前のボランティアを考えている。 ・避難訓練や集会時の呼びかけを継続して行う。また避難訓練だけでなく、道徳科の授業等、各教科の授業を連関させ各学年で学びを深める。 ・保健体育の授業や部活動等において、学校全体で生徒が主体的に取り組めるよう、生徒に自己決定させたり、授業等で話し合い活動を充実させていく。 ・マスク・エプロン・三角巾の3点セットの着用を徹底できているか、配膳中に確認して回することで配膳時間にも気をつけるようになってきたので継続していきたい。 ・4時間目の授業を意識して時間通りに終了していきたい。
信頼される学校	★ 教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	○生徒と向き合う時間の確保 ○長時間業務の削減	○生徒と向き合う時間が確保されたと感じる教員は90.9%で目標値90%を0.9ポイント上回った。2学期は行事等が多く開催されたが、先を見据えた取組や適切な役割分担により、授業日の時間外勤務時間が中間期より約3h短縮された。また、1学期より生徒間のトラブルが減少傾向にある。 ○9月～12月の期間、時間外勤務平均時間25時間58分であった。昨年度の中間期(28時間36分)に比べ、1人当たりの平均時間が約2時間38分減少している。生徒指導対策会議の情報共有による組織的な指導・支援により、問題行動の数が減少しつつある。	・来年度に向け、組織的な教育相談体制の充実、Q-Uアンケートを活用した生徒理解に基づいた個別支援、未然防止に向けた組織的な生徒指導を推進し、生徒と向き合う時間の確保を行っていく。 ・教職員の職務への意識改革(優先順位、業務の重点化、見通しを持った業務遂行)を継続して行うとともに、何でも話せる風通しの良い職員室風土を醸成し、働くことへの満足感を感じられる職員集団を目指していく。